

● 矢沢地区地域リーダー研修会

標記研修会は、雪交じりの冷たい雨が降る11月26日に開催。今年度は矢沢振興センターにAED（自動体外式除細動器）が配付されたことに伴い、「救命入門コース」として、関係機関の役員の皆さんに参加を呼び掛け、26名の参加で実施しました。当日の研修会は、講師として花巻市消防本部緊急救助係の5名の職員が担当。講師の方は、救急車が到着する約8分間の対応が命を救うためには重要と力説。「救命に必要な応急手当を学ぼう！」と、参加者は3班に分かれ基本的な説明を受けた後、講師の指導を受けながら、実際に訓練用の人形やAEDを使っての応急手当を学びました。AEDは矢沢振興センターにあります。



講師の花巻市消防本部の5名
主催者挨拶する中島健次矢振会会長



応急手当の訓練を行う参加者の皆さん

矢沢振興センター改修工事も最終盤へ！

(有)鈴木工建、(有)栄電気、(株)理水興業の請負業者による矢沢振興センター改修工事は、悪天候の影響もあり遅れがちでしたが、年内完成検査を目指して急ピッチで作業が進められています。この間、市の担当課を交えて工程会議を5回開催しております。利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、もうしばらくご協力をお願い致します。



● 社会福祉協議会矢沢支部& 矢沢民生児童委員協議会 合同研修会

11月26日、合同研修会が矢沢振興センターで開催され、長寿福祉課から市の福祉政策の説明、高松第三行政区ふるさと地域協議会の熊谷哲周事務局長から農福連携支援事業の取組についての事例報告がありました。

今年度から同協議会が障害福祉サービス事業所こぶし苑支援として、共同で高松地内において取組んでいるサツマイモ栽培。今回はデモストレーションとして矢沢振興センター前で、干し芋と焼き芋販売を実施しました。

協議会やこぶし苑では、今後サツマイモの作付面積を広げて収穫量を増やすとして、販路の拡大と今後の取組に意欲を示していました。



高松第三行政区の皆さん



● ニュースポーツ交流大会を開催します！

昨年度コロナ禍により中止となりました行政区対抗の第3回ニュースポーツ交流大会は、今年度はコロナ対策を講じたうえで行う予定です。

選手選考等は行政区長にお願いしています。

日時：1月30日（日）09時～11時

会場：矢沢振興センター 講堂

種目：シャフルボード（選手2名）

ディスゲッター（選手3名）

形式：予選・リーグ戦方式（2ブロック）

決勝・トーナメント方式（3位決定戦有）

主催：矢沢地域振興会ニュースポーツ推進
事業部会（伊藤昇部会長）



シャフルボード



ディスゲッター

1月1日号はお休みです。皆様良いお年をお迎えください。新しい年もよろしくお願ひ致します。

矢沢振興センター 事務局一同

❁ 矢沢明老大学 1月講座 のお知らせ

期日：令和4年1月12日（水）

10時～

会場：矢沢振興センター 大広間

内容：ふれあいゲームや頭の体操！
音楽に合わせて楽しい軽体操
やレクダンス

講師：花巻市生涯学習講師

立花 良子 さん



一人住まいの高齢者(75歳以上)の方へ
各地域の民生委員さんがおせち料理をお届けします

矢沢地域振興会では、今年も大晦日恒例となっているおせち料理の贈呈事業を、高松第三行政区ふるさと地域協議会（神山儀悦会長）のご協力もいただきながらおこないます。



● 高木団地への移動図書館（ぎんが号）巡回
1月12日（水）13:30～13:50です

【事務局員のつぶやき】（「クリスマス寒波&年末寒波」）

年の瀬も押し迫ってくる頃、クリスマス寒波や年末寒波が話題になることがあります。気象庁では、寒気と寒波について次のように定義しています。寒気は周りの空気に比べて低温な空気。寒波は主として冬期に、広い地域に2～3日、又はそれ以上にわたって顕著な気温の低下をもたらすような寒気が到来することとしています。つまり気温が低くなっても一時的なら寒気、規模が大きくて2～3日以上長く低温が続く場合を寒波と言っています。

ここでは便宜的に、クリスマス寒波と年末寒波の期間を12月21日～翌年の1月1日までに設定。秋田高層データ（21時）で大雪の目安と言われている500hPaで-35℃以下が2日以上続く場合を寒波の来襲と定義づけして、データが入手容易な昭和63年（1988年）から令和2年までの33年間について調べました。

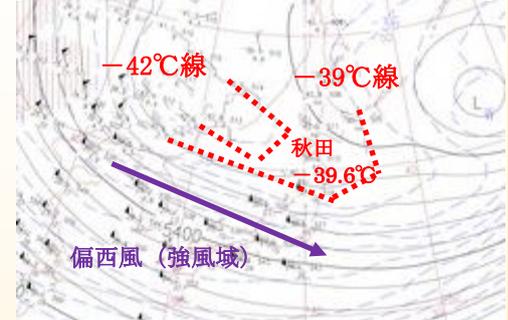
この結果、12月下旬に2日以上続けて強い寒気が秋田上空に流入した回数は、33年間で17年（19回）とほぼ2年に一回、強い寒気が東北地方上空に流れ込んでいることとなります

（下図参照）。言い換えれば東北北部は2年に一回はクリスマス寒波或いは年末寒波の影響を受けているとも言えそうです。

事例として、特に寒気の居座った平成17年は、12月下旬の平均気温-2.2℃（年平均偏差-2.1℃）、降雪量84cm（年平均比3.8倍）と低温、大雪となっています。この様に上空の寒気と地上の気象とは高い関連があります。ちなみにこの期間、最も低温（-2.6℃）となった平成14年は好天に恵まれて（日照時間が年平均比119%）、放射冷却が効き下旬の最低気温が-10.4℃（年平均偏差-7.0℃）と大きく下がったことの寄与が大きいのと思われます。ちなみに降雪量は13cm（年平均値22cm）と少なく、このことを示しています。

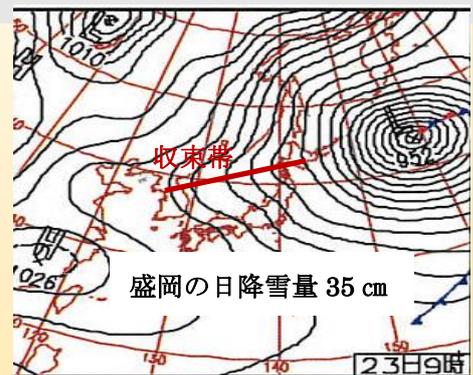
11月24日発表の3か月予報（12-2月）によると、東北地方は、この期間の気温は寒気の影響を受けにくく年平均並みか高く、降水量はほぼ年平均並み、降雪量は年平均並みの見込みとなっているが、低気圧の影響を受けやすい。一方、東日本以西は、偏西風の蛇行やラニーニャ現象が続く予想などから、冬型の気圧配置になり易く寒気の影響を受けやすい予想となっています。さて、どんな年末年始？

【事例：平成17年12月23日の天気図】



平成17年12月23日21時
500hPa 天気図

（北日本上空に-40℃以下の強い寒気）



平成17年12月23日09時

地上天気図（強い冬型の気圧配置）

盛岡における12月下旬の平均気温の経過（昭和63年～令和2年の33年間の観測値）

★印は「クリスマス寒波・年末寒波」襲来年を表す（元号年）

